

## 札幌市立新琴似北中学校の取組

### 1 道徳科の指導について

#### ・授業づくりのポイント

学習指導要領にあるように「答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図る」ことを意識している。教師がまとめをする、答えを絞っていくような展開となることがないように意識しながら授業をおこなっている。

読み物教材を使うときには、発問を多くすると結論が収束しがちになったり、あるいは話がまとまらなくなったりする場合が見られるので、発問は1～2個程度にしている。その教材で一番考えてほしいことにポイントを絞って発問をすることで、生徒はより多くのことを深く考えることができるからである。

#### ・多様な学習展開

副読本を採用しているので、それを中心として授業を展開している。しかしながら、読み物教材だけではなく、グループエンカウンターやモラルスキルトレーニング等、様々な手法を取り入れることを心がけている。

また、生徒の心に響く授業を展開しようという思いで、その感動や葛藤をできるだけ多くの人数で共有するために、学年道徳も実施している。心に訴えかけるメッセージ性の強い道徳科は、生徒の考えようという意欲を高めることにつながると考えており、学年道徳は年に数回実施するのが良いと考えている。

#### ・学習指導における配慮事項

上記の授業づくりのポイントにも関わる部分であるが、ポイントを絞って考えさせ、授業の最後に振り返りの時間を確保することを心がけている。読み物教材を読んだり、話し合いや体験活動を通して考えたりしたことを定着させるために、自分の考えと向き合う時間が必要と考えているからである。中学生くらいになると書いて整理することが効果的と考えているので、“こころのおと”というワークシートを使い、毎時間同じものに記録させるようにしている。生徒自身が自分の思いや考えを簡単に振り返ることができ、成長や心の変化を感じとることができることも利点と考えている。また、ただ感想を書かせるのではなく、ポイントを伝え、それについて書いてもらうことで、評価にもつながるようにしている。実際に、来年度からは“こころのおと”を中心に評価をする計画である。

## 2 道徳科の評価について

### ・評価の工夫と留意点

授業の中での取組や発言等を見取することはもちろんであるが、中学生くらいになると自分の思いや考えを発表することに抵抗を感じる生徒も増えてくるため、前述の“ころのおと”にそれらを書くことができるように指導している。中には書くことが難しい生徒もいるので一概に効果的とは言えないが、授業の中での心境の変化や感想を素直に書いてくれる場合が多く、それを認めていくことが評価につながると考えている。

### ・校内で共通理解を図るための手だて

担任が授業をおこなうのではなく、ローテーション道徳や学年道徳をおこなうことで、より多くの教師で生徒の思いや考えを理解することを心がけている。

また、注意点として以下の3つを確認していく予定である。(第3回校内研修会にて)

- ①道徳性に関する評価をおこなわない(思いやりが身についた等)
- ②性格等についての記述をしない(積極的に became 等)
- ③具体的な行動等についての記述をしない(委員会活動に責任をもって取り組むよう became 等)

これらは評価の基本でもあるが、そこをしっかりとおさえ、すでに出ている資料等を参考にしておこなっていきたい。